



すごいと思いませんか?!  
七尾市長寿第2位  
**荒木又吉** さん  
(104歳)  
(深見町)

「家にいたら、家族に迷惑をかける  
だから、外に出かけるんや」

こんな高齢者を見たことがありますか!?七尾だけではなく、全国でもこんなに元気なおじいちゃんはなかなかいないのでは。

荒木さんは、明治40年9月21日生まれ。104歳になったばかり。104歳になった今でも、体の衰えを知らない。

「家にいたら、家族に迷惑をかける。自分のことは自分でやるのが基本。自分のことではなくても、自分がやることで周りの人が助かるのであれば、やらないと」と家族や周囲の人たちへの気配りを忘れない。

取材した日の最高気温は34℃。それにもかかわらず、草が気になり、自分で草刈機のエンジンをかけ、草を刈る。「昨日は、家の向

いにある<sup>うわのやま</sup>上野山に、草刈機を持って登ってきた。そこには昔植えた木を見に行くんや。その木に、手を当てて話しかけるんや。お前もがんばったなあ。そしたら、木も応えるんや。又吉さん、まだまだがんばってくださいなと言うから、がんばらなと思い、その木の周りの草を刈ってきた」と日本昔話にあるようなおもしろい話をする荒木さん。

食欲も旺盛。嫌いなものはない。昼食にはご飯を山盛りにして、家族が作った料理をおいしそうに食べる。まさに超人だ。私自身がこの取材で元気をもらった。

皆さんはどうですか?荒木さんを見て、元気をもらった気がしませんか?



上右/草刈機のエンジンをかける荒木さん。上左/昼食をおいしそうに食べる荒木さん。下/裏山での散歩の途中、木に話しかける荒木さん。

fresh san  
なかしま 英吾さん  
(26歳・矢田新町)



このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介し  
ます。中島さんは前回の沢井さんの紹介です。



「都会はモノがあふれているから何も見えなくなる。自分の存在も埋もれてしまうような気がして」と話す中島さんは、東京での学生生活後に、ふるさと七尾へ。現在は、のど共栄信用金庫本店に勤めて4年目。「まだまだ慣れていないけど、後輩もできたので、教わる立場と教える立場があつて」と少し戸惑いもみせる。それでも「七尾で育つたので、七尾に帰りがたかった。地域に根付いた企

業で働きたかった」と現在の職を選んだことに胸を張る。主に徳田地区と高階地区を担当し、「近くにATMがないので、高齢者からよく呼んでいただけて」と忙しい毎日を送る。休日は会社のボランティア活動や、サッカー(所属チーム・七尾レッドパズ)で汗を流す。将来は「幸せな家庭を築いて落ち着きたい」と話し、「若いのに落ち着き過ぎとお客さんからよく言われて(笑)」と漏らす。一方で、「自分は目立ちたがり。(このコーナーに)紹介されてうれしかった」とも。これから地域でどう『目立つ』のかが楽しみだ。

「夫とは東京で知り合い結婚してね。結婚3年目のときに七尾に来たの。もう42年もたつんだから、野沢の話を言われてもねえ」と明るくハキハキ話す三井さん。

**三井 美登子さん**  
(70歳・中島町笠師)  
出身地 長野県野沢温泉村



思えば遠くへ  
来たもんだ

七尾に来たばかりの第一印象は「野沢の風は爽やかなのに、家が海に近い関係で、潮風だから肌がべとついてね。最初は嫌だったけど、今は七尾って感じて違和感がなくなつたわよ」と海がない野沢温泉村で育つた三井さんには、はじめは七尾での生活に抵抗があつたようだ。今はすっかり七尾人。これまでに農協の婦人部長や公民館の福祉推進員を歴任するなど、地域に頼られる存在となっている。「歳がいくと、故郷の想い入れが強くなってね。早く北陸新幹線に乗って、故郷に行くのが一番の楽しみ」と故郷の想いも忘れない。



このコーナーでは、県外から市内へ転入された人の声を紹介しします。